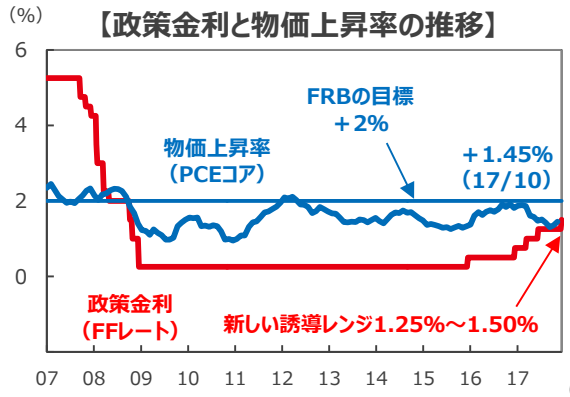


今日のトピック 米国の金融政策（2017年12月）
政策金利を0.25%引き上げ、緩やかな利上げを継続へ

ポイント1 政策金利を0.25%引き上げ
今年3回目の利上げ

- 12月12日～13日に開催された米連邦公開市場委員会（FOMC）は、市場の予想通り、政策金利（FFレート）の誘導レンジを0.25%引き上げ、1.25%～1.50%とすることを決定しました。利上げの決定に対しては、「据え置き」を主張して2票の反対票が投じられました。



(注1) FFレートは2007年1月5日～2017年12月14日。2008年12月以降のFFレートは誘導レンジの上限を表示。
(注2) 物価上昇率はPCE（個人消費支出）コア物価指数の前年同月比で、2007年1月～2017年10月。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 成長率予想は上方修正
物価、金利見通しは据え置き

- 公表された声明文では、「経済は堅調な速度で成長」と評価しました。ハリケーンについては、「経済活動や物価に影響を及ぼしたが、経済の見通しを大幅に修正させるほどのものではない」と述べています。
- FOMC参加者の経済予測は、9月時点に比べ成長率が上方修正、失業率は下方修正されました。現在、米議会で審議されている税制改正（減税等）の影響を反映させたと見られます。
- 成長率見通しは上方修正されましたが、物価、政策金利に関する参加者の見通しには変更はほとんどありませんでした。2018年については、9月時点と同様に3回の利上げ予測が多数を占めました。

【FOMC参加者の経済見通し】

項目	開催月	2017年	2018年	2019年
GDP成長率	12月	2.5	2.5	2.1
	(%)	9月	2.4	2.1
失業率	12月	4.1	3.9	3.9
	(%)	9月	4.3	4.1
物価上昇率	12月	1.5	1.9	2.0
	(%)	9月	1.5	1.9
FFレート	12月	1.4	2.1	2.7
	(%)	9月	1.4	2.1

(注) FOMCメンバー予測の中央値。GDPと物価上昇率は10～12月期の前年同期比。物価上昇率はPCE（個人消費支出）コア物価指数の上昇率。
(出所) 米連邦準備制度理事会（FRB）の資料を基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 「緩やかなペースでの利上げ」が継続される見通し

- FOMC参加者の経済予測等から判断すると、「緩やかな景気拡大、物価上昇のもとで、緩やかな利上げの継続」という基本観に変化はないようです。利上げが継続されても、そのペースが緩やかなものにとどまるのであれば、金融・為替市場が大きく混乱する可能性は低いと考えられます。
- 今回の決定は事前の予想通りでしたが、FOMCで成長率見通しが上方修正されたにもかかわらず、物価、政策金利の見通しが据え置かれたこと、同日発表された物価指標が市場予想を下回ったこと等を受け、13日の米国市場では、株価、債券価格がともに上昇（債券利回りは低下）しました。

ここもチェック! 2017年12月11日 順調な拡大を示す米国の雇用統計（2017年11月）
2017年12月 1日 米『ページブック』、労働需給の逼迫を指摘

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。